

## 令和2年7月28日亀岡市教育委員会会議録

- 1 開会 午前9時00分  
閉会 午前10時30分

### 2 出席委員

神 先 宏 彰	教育長
関 吉 廣	教育長職務代理者
江 口 昌 道	委員
北 村 真 也	委員
末 永 礼 子	委員
出 藏 裕 子	委員
福 嶋 百合子	委員

### 3 欠席委員

なし

### 4 出席事務局職員

片 山 久仁彦	教育部長
國 府 美 幸	次長兼総括指導主事
亀 井 鶴 子	教育総務課長
伊豆田 晃 正	学校教育課長
谷 口 正 二	社会教育課長
山 崎 浩 久	社会教育課人権教育担当課長
松 永 潤 子	歴史文化財課長
桂 和 裕	学校給食センター所長
谷 仁 志	図書館長
鵜 飼 均	文化資料館長
海老原 睦	教育研究所長
卷 田 晃 宏	教育総務課総務係長

### 5 傍聴者

1名

### 6 議事の概要

#### (1) 開会

○教育長が開会を宣言。

(2) 前回会議録の承認

令和2年6月23日に開催した定例会の会議録を承認した。

(3) 教育長からの報告

○教育長から以下の報告があった。

◎亀岡市関係

- ・延期していた令和2年度教育支援委員会の委嘱状交付式を行った。
- ・教育委員の学校訪問を行い、保津小学校で英語教育、東別院小学校でICT教育の授業を視察した。
- ・学校規模適正化にもかかわる小中連携教育について、小中連携教育校推進会議を立ち上げ協議を行った。
- ・放課後児童会支援員連絡調整会議を開催し、臨時休校中の対応をねぎらうとともに改めて今後の運営に向け協議を行った。
- ・地域こん談会が亀岡地区東部から始まり、これまでに曾我部町、千歳町、河原林町、旭町とこん談した。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため文書回答のみの地域もある。訪問するところも1時間で終了することになっている。
- ・校園長会議を開催し、本来なら夏休みまであと2週間ほどになるが、今年はあと1ヶ月あり、子どもたちの心のケアについてもあらためて気を引きしめていくよう指示した。
- ・学校規模適正化にかかわって東別院町と西別院町自治会長とこん談を行い、今後の進め方について協議した。
- ・点検・評価にかかる教育委員協議会と、学校訪問の総括等にかかる教育委員協議会を開催した。
- ・学校教職員安全衛生委員会を開催し、教職員の健康をどう維持し守っていくかについて協議した。
- ・財務省から出向されていた仲山副市長の退任式が行われた。2年間本市の教育についても多くの助言をいただいた。
- ・中学校給食の実現をめざす亀岡市民の会とこん談を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症の児童の感染が確認されたことを受け、臨時校園長会議を開催し、今一度、感染対策と児童の人権、心のケアについて徹底することを指示した。
- ・亀岡光秀まつり企画委員会が開催され、11月に延期予定であった光秀まつりの中止をやむなく決定した。
- ・今年度第1回の社会教育委員会議を開催し、12人の社会教育委員に委嘱を行った。

## ◎国・府等の関係

- ・令和3年度の近畿都市教育長協議会総会と研究協議会を京都府で開催するため、会場市となる京丹後市と宇治市と協議を行った。
- ・京都府市町村教育委員連合会教育長部会世話人会が開催され、今後の計画を協議した。
- ・近畿都市教育長協議会の令和2年度研究協議会の打ち合わせを南あわじ市で行った。10月に開催予定であるが、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大状況から中止の方向で検討することとなった。

### (4) 報告事項

- ①新型コロナウイルス感染症に係る対応について
- ②令和3年度亀岡市立小規模特認校児童募集について
- ③令和3年亀岡市成人式について
- ④令和2年度亀岡市地域学校協働活動推進事業について
- ⑤亀岡市放課後児童会の夏季休業期間開設及び保護者負担金の一部減額について
- ⑥文化資料館第67回企画展「人と動物たちのものがたり」の開催について
- ⑦令和2年度9月教職員研修講座のお知らせについて
- ⑧地域ふれあいサイエンスフェスタ2020（Web開催）について

○各課長等からの報告を受けて、委員から次の質問・意見があった。

<新型コロナウイルス感染症に係る対応について>

出 蔵 委 員 学校に感染者が出た場合、消毒作業はいつもとは違って防護服など着て行ったのか。

教 育 部 次 長 保健所の指導では、毎日の校内消毒と同じでいいということではあった。土日を挟んで72時間経過していたため、防護服は着なかったが、教育委員会事務局職員と教職員でいつもより丁寧に消毒を行った。

出 蔵 委 員 学校では再開後の6月から毎日消毒されていて、消毒液がなくなってきている時期ではないか。今一度、各学校に十分な消毒液が行きわたるよう教育委員会で準備いただきたい。

学 校 教 育 課 長 4、5月に比べると消毒液の納期は早まっている。学校と十分連携し、先を見通して今後も計画的な発注に努めていきたい。

教 育 長 学校OBやPTAなどから直接学校に寄附もいただいているところである。

北 村 委 員 PCR検査を誰にするのか、濃厚接触者にあたるかどうかの判断は保健所がするのか。一人ずつ全員に保健所がヒアリングされるのか。

教育部次長 感染した本人の行動、誰と会ったかなどについては、保健所が本人に聞き取りをされたと聞いている。学校での活動については学校が保健所に情報を提供し、それに基づき保健所が判断されたとのことで、子どもたちへの直接の聞き取りはなかったと聞いている。

北村委員 同じクラスの児童は濃厚接触者にはなっていないのか。

教育部長 今回、誰がPCR検査をされたのか保健所から情報提供はなく、同じクラスの子どもが必ずしもすべて濃厚接触者になるわけではないと言われている。子どもたちの体調、症状があるかどうかなどを考慮され、総合的に判断されたと考える。

北村委員 濃厚接触者はどれ位の人数になったのか。

教育部長 PCR検査を受けられた方を濃厚接触者とするなら、80人前後だと記憶している。公表されている数字ではない。

末永委員 子どもや保護者の方から不安の声や問い合わせ、あるいは地域の方から心配する声はなかったのか。

教育部長 学校の方に濃厚接触者に該当しないか、検査を受けられるのかなど、不安解消のために情報を提供してほしいという訴えは多数あったと聞いている。学校から教育委員会に報告があったため、教育委員会から市の保健衛生部局に伝えて検査を受けられるような体制をとっていただきたいと依頼した。一方で、濃厚接触者になると影響が出ると思われて、検査を受ける必要があるのかという声も多くはないがあった。個々の状況によって、受け止め方や考え方は千差万別であったと思う。そのような中で、教育委員会としては不安が大きいことに対して、また学校の再開に向けてどのような形をとっていただけるのかについて、市の衛生部局や保健所と連携はとれていたと考える。しかし、初めてのケースでもあったのでしっかりと振り返ることも大切であり、また、次におこらないように、今後さらに防止策もとっていきたい。

出藏委員 今回また休校になり学力保障が心配である。今後、どこの学校でも起こりうることだと思う。先生方も消毒や健康観察、課題の作成等、大変だと思われる。どのような手立てが考えられているのか。

教育部次長 2学期に水曜日の授業を5時間から6時間に増やしたり、学校行事を精選して学びの保障をするなど、多くの負担を子どもたちにかけないよう配慮しながら様々な案を学校では考えている。

関職務代理者 今回、初めてのケースで、京都府の知事部局である保健所の指示で動いていると思うが、亀岡市教育委員会としては学校

から情報を得て動いているのか、保健所と連携して学校にまとまった指示をおろす体制になっているのか。

教育部長 保健所も個人情報の取扱いに慎重になっている。保護者から学校へ、学校から教育委員会に情報が入ってくるパターンがほとんどである。情報の入り方にタイムラグがあると対応も遅れることになるので、課題であると感じている。

<令和3年度亀岡市立小規模特認校児童募集について>

北村委員 いつから広報するのか。

学校教育課長 すでに亀岡市のホームページに掲載している。

関職務代理者 個人情報のこともあり、子どもの顔写真が掲載されていることについては大丈夫か。

学校教育課長 毎年、保護者に許可はとっている。

北村委員 小規模特認校については、検証をどうしていくのかという話があったかと思うが、今年度の募集も始まっていく。どのように考えておられるのか。

学校教育課長 何をもって検証していくのか難しい面もあり、利用している保護者の声を聴いていくことも必要だと考えている。あらためて整理して資料も作成し、また学校規模適正化の取り組みも含めて検証していただく機会を設けたいと考えている。

<令和3年亀岡市成人式について>

江口委員 スタジアムのピッチは使わずにスタンドだけで行うのか。

社会教育課長 新成人や来賓の方は観客席に座っていただき、ピッチ側には舞台を作り大型スクリーンに映し出すことを検討している。

江口委員 雨や雪の場合はどうするのか。

社会教育課長 観客席には屋根があり、前から6列目以降の席は雨などかからず大丈夫であると考えている。ピッチ側にはテントを張って対応することを考えている。

出藏委員 ピンチをチャンスに変えられて素晴らしい発想の転換だと思う。ふるさとを想う気持ちと記憶に残る成人式になる。日程があいていれば、令和4年以降もずっとスタジアムでできればいいと思う。

<令和2年度亀岡市地域学校協働活動推進事業について>

出藏委員 亀岡市から23地区に補助金が出ているのか。

社会教育課長 そのとおりである。

関職務代理者 これまでの「心の教育」の取り組みが、本当の意味で地域で子どもたちを見守っていく活動になってほしい。これまで

の事業に市からの補助金で地域が潤うという感覚ではなく、子どもたちのためになる事業であってほしい。

＜地域ふれあいサイエンスフェスタ2020（Web開催）について＞

江口委員 対象は市民だけになるのか。Web開催なら全世界を意識してアピールしてはどうか。

教育研究所長 どのような広報をしていくのか考えていきたい。

北村委員 サイエンスフェスタは、本市にとっては大きな資源である。GIGAスクール構想も今後、教育研究所は大事な役割を担うことになる。今年度のイベントは制限を受けてできずに予算は残っているのではないか。その予算をまわせるのであれば、サイエンスフェスタ単独のWebサイトを立ち上げてはどうか。ピンチをチャンスに変えて検討してほしい。

末永委員 サイエンスフェスタは毎年定着してきて、他に例をみない大きな取組みで中止は残念である。ただ今年度、空白ではなくWebでつなげられ新たな展開となる。参加団体を募って動画を集められるのであれば、高校、大学、企業や団体のリンクを貼ればそれぞれメリットにもなる。サイエンスフェスタのこれまでの歩みや取組を紹介するなど、一定まとまりのあるサイトにできるのではないか。

教育研究所長 いただいた多くの御意見を含めて検討していきたい。

#### (5) その他

亀岡市都市計画審議会委員の任期満了に伴う新委員の推薦について、引き続き江口委員を推薦することとした。

#### (6) 閉会

○教育長が閉会を宣言

以 上